ロイロノートを活用した人間関係プログラムの実施

K 市立 T 中学校
教諭　O.Y

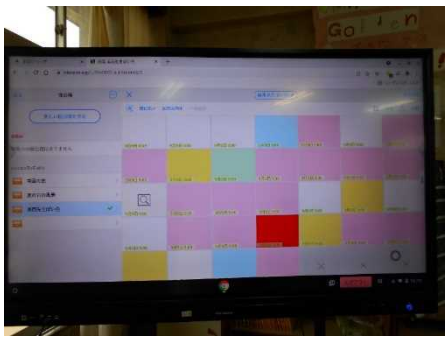
2021 年 9 月 9 日（木）本校第 1 学年の全クラス（4 クラス）で『いじめ・不登校を防止する人間関係プログラム　個の成長を支援するアクティブラーニング型授業実践』の授業を実施した。この授業内容を「ハッピータイム」と名づけて本校では 2018 年度から当該学年で実施してきている。今回はロイロノートを使用して「南国の島」の授業を行った。実施時間と実施クラスは以下の通りである。

1 限目：1 年２組
２限目：1 年 1 組
３限目：1 年４組
６限目：1 年３組

「南国の島」の授業は、教員の指示のもと「夏の日の風景」と「南国の島」という 2 つの絵を描いて進めていく。絵を描く上で「教員が見ている絵と同じ絵を描くこと」が条件となる。教員は生徒に描いてもらう絵の情報を言葉のみで伝えていく。1 枚目に描く「夏の日の風景」では、生徒が絵を描いていく過程で質問を一切受けつけない。2 枚目に描く「南国の島」では、質問することが許される。完成した 2 枚の絵をシェアしていく中で、生徒に気づきが得られるプログラムとなっている。

『いじめ・不登校を防止する人間関係プログラム』本誌ｐ32～ｐ33 の指導案では、導入であるウォーミングアップに「しりとり」が掲載されているが、今回は生徒一人一台のタブレット端末を使用し、ロイロノートを活用しての授業を行うことから、ウォーミングアップをロイロノートの動作確認に充てた。本誌の指導案はこの文章の最後に添付してある。（ｐ9～ｐ10 参照）

なお、今回の授業実施にあたってはタブレット端末を使用するため、ICT 支援員に全クラス一緒に授業に入ってもらい、支援を受けながら授業を進めた。

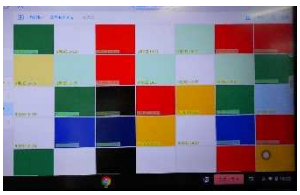


まず、ウォーミングアップとして ICT 支援員から操作説明をしてもらった。アイスブレイクを含め「担任の先生っぽいと思う色」の用紙を生徒に選択させ、画面上の提出箱に自分が選択した色の用紙を提出するという動作などを確認した。左の写真はプログラム実施者である「O 先生っぽい色」の集約結果である。ロイロノートを活用すれば、リアルタイムで結果を映し出して見ることができる。

ICT 支援員曰く、「担任の先生が、自分で『私っぽい色を選んで。』と生徒に言うよりも、他の人（担任以外）から『担任の先生っぽい色』と言われた方が、生徒は余計なことを考えずに素直に選択できる。」とのこと。自分では尋ねにくい面を ICT 支援員に有効に支援してもらえた。

因みに、他クラスでの集約結果は次のページの通りである。各学級担任のイメージ色結果が異なり、興味深い結果となった。中学校であるため、担当教科のもつイメージの色を選択したという生徒もいれば、普段その先生が着ているような服の色を選択する傾向も見られた。2 組担任が本プログラム実施者で、上の画像。担当教科は国語である。他クラスの結果を各学級担任の担当教科と共に記載しておく。

１組理科



３組社会

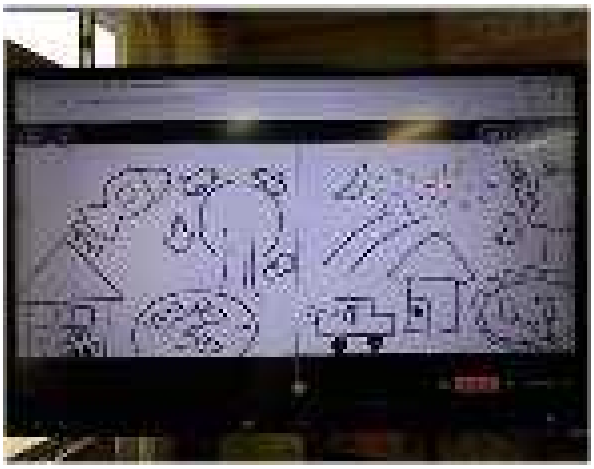
４組美術

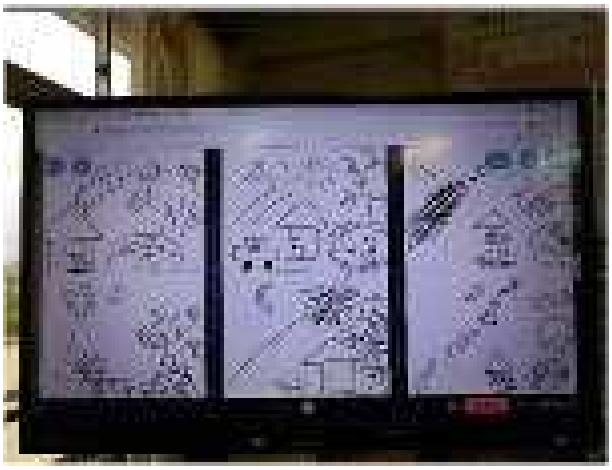
用紙選択・提出箱へ提出する方法を確認後は、画面上の用紙に手書きするための動作を確認した。ペンの色は様々な色を選択できるが、今回は黒を選択し、ペンの太さはロイロノート内の手書きペンの真ん中の太さで生徒に描いてもらうことを説明した。その後、画面上の消しゴムの使い方を ICT 支援員から説明してもらった。指でなぞった部分を消す方法・全て消す方法・一つ戻る方法もあることなど。なお、今回はタッチペン等を使用せず、指で直接端末画面に描いてもらって授業を進めた。

以上、ここまでの動作確認をウォーミングアップとして行った。ここまでは ICT 支援員主導で説明を行い、ここから授業者は交替して、私が主導となり「南国の島」のエクササイズを進めていった。

指書きのため多少絵を描きにくい点もあることを踏まえ、絵の上手い下手を見るのではないことを生徒に強調し、授業に入った。１枚目の絵「夏の日の風景」をロイロノートで生徒に描いてもらい、シェアをした。本誌の指導案では班単位でのシェアに留まっているが、ロイロノートを活用すれば、全員の描いた絵を電子黒板で映し出すことができ、班単位ではなく全員で即座に共有が可能である。それに加えて、電子黒板の画面と同一画面を生徒の使用する端末にも配信可能であるため、教室前方の電子黒板に映し出されている画像が見えにくい生徒には、自分の端末で間近に絵を見ることができるメリットがある。

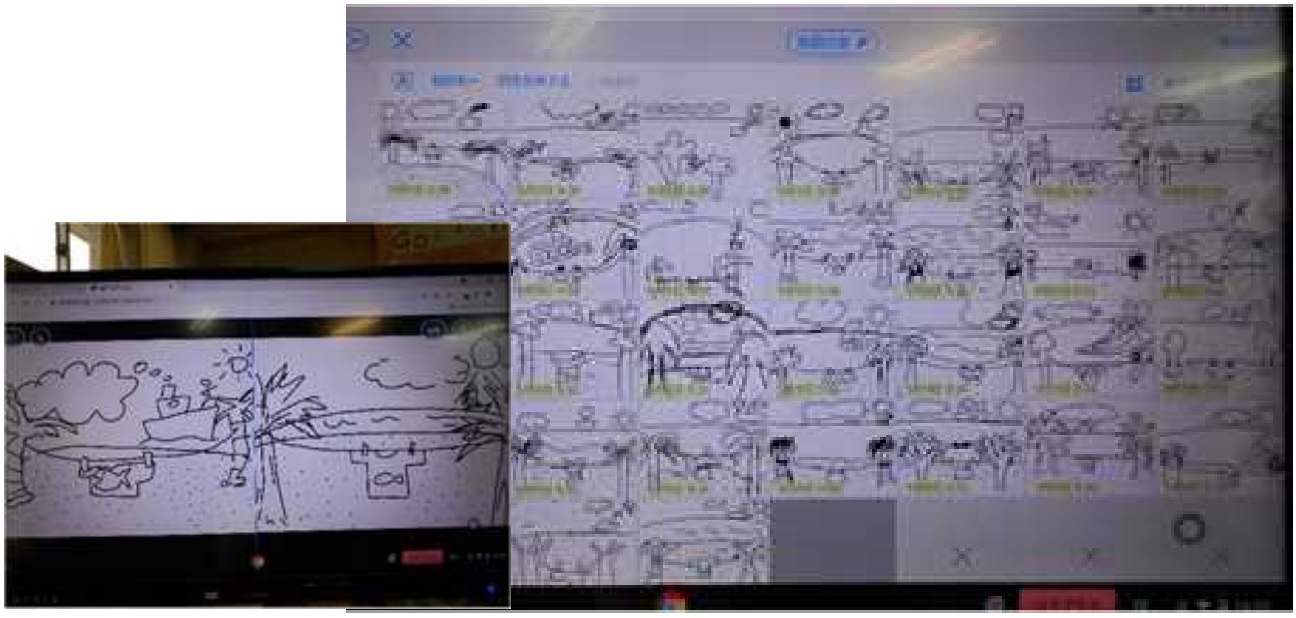
シェアリングを行うにあたり、教師側としては、生徒の絵が下手でも着目点を褒めることを大切にし、電子黒板を用いながら共有を行った。ロイロノートでは着目点に印をつけることもでき、複数の生徒の絵を選択・比較表示することもできる。また、無記名で表示可能なため、今回の授業には非常に有効であった。授業の最初に強調した「絵の上手い下手」が名前で表れることなく、それらが影響せず全員の絵が共有可能であった。表示順も提出の速い生徒から順に並べたり、名前順に並べ替えたり、無記名で表示したりと自由自在である。





ｐ3～ｐ4 にかけての画像は電子黒板を活用し、シェアリングを行ったものである。全員分の絵を見ていく時には、ICT 支援員と作業を分担して授業を進めることができた。次の絵に切り替える動作を ICT 支援員が行い、画面を見ての違い分析・説明を私が行ったため、比較の作業がスムーズに行えた。

このようにロイロノートを活用しながら、同様に 2 枚目の絵「南国の島」も進めた。今度は質問することが許される。完成した絵をシェアしていく中で、生徒は気づきを得ていった。



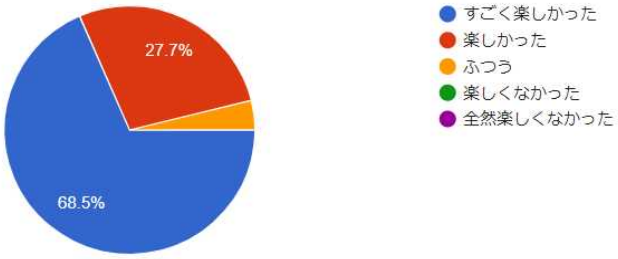
授業の最後に行う「ふりかえり」では Google の Forms を活用した。今までは紙媒体でのふりかえりを生徒に記入してもらってきたが、今回、生徒一人一台の端末から個別にアンケート回収を行えるよう、事前に作成した様式を生徒の端末に送信して行った。この Forms は選択式も記述式もアンケート調査集約が可能で、瞬時に集計結果を見ることができる。また、必須回答項目も事前に登録しておくことができるため、項目記入漏れを防止できる。必須項目に回答忘れがあった場合、アンケートを送信できない仕組みとなっているからだ。紙媒体に比べ、漏れなく速

Google の Forms

く集約可能である。また、アンケート調査結果は自動でグラフとなって抽出されるので、その場でどの項目がどのくらいの割合で回答があったのかを見ることもできる。エクセルのように数値からグラフを作成していく手間もなく、自動でグラフが作成される。今回の授業でのアンケート結果は以下に掲載する。

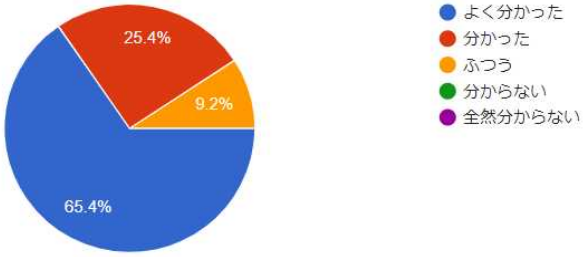
①今日の授業は楽しかったですか？

130 件の回答



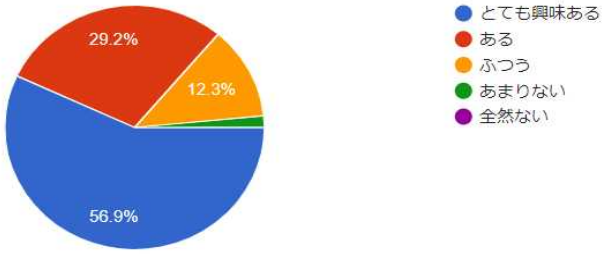
②今日の授業はよくわかりましたか？

130 件の回答



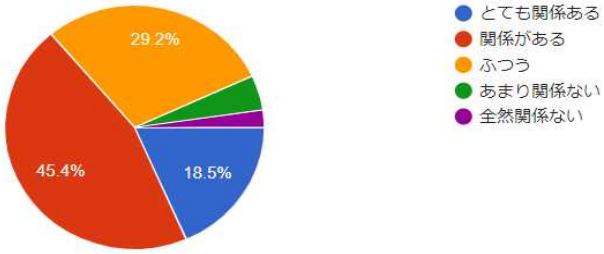
③興味をもちましたか？

130 件の回答



④今日の授業は、あなたの生活に関係があると思いますか？

130 件の回答



さらに、Google の Forms では「回答をスプレッドシートに表示」というボタンを押せば、アンケート集約したものを一覧ですぐに閲覧することも可能である。（以下、一覧表）

次に記載するのは、今回の授業で得られた生徒の気づきである。

①「夏の日の風景・南国の島」で発見したこと、②今日の授業で一番印象に残ったことという 2 項目で本時のふりかえりを行った。以下に生徒のふりかえりを記載する。

・描くものが一緒でも人によっては島の位置、船の形が違った。
・全員同じお題なのに人によって考えが違うところがまた面白いということ。
・同じことを聞いていてもそれぞれ違う絵ができるということ。
・同じ話を聞いていてもみんなのを見てみると全然絵が違ったこと。
・いろんな発想があって面白かったです。
・ロケット花火の印象が自分と違う人がたくさんいた。
・クラスのみんなで、同じ絵を書くというのは、意外と難しいなと思いました。
・皆やっぱり違う考え方があっていろいろな構図になるんだなと思いました。
・一回目はみんなバラバラだったけど質問ができるようになったらみんなそろいだした。
・質問があるだけでだいぶ変わったと思います。・質問有りと無しでは全然違うことがわかった。
・質問ありだと、全員が同じようになってすごいなと思いました。
・全員で、揃えるのは難しいということ。
・ちょっとしたことでも、質問しないと皆の絵を揃えられないから質問しないといけないことが分かった。
・質問をすると結構揃うことが嬉しかった。
・質問がなかったら、どこに書くのかがわからなかったけど、質問があったほうが書きやすかったです。
・質問しないとうけとる側が勝手に判断してしまうので質問は大切だと思いました。
・勝手にこうだと決めつけるのはだめで質問するのがいいと思いました。

・勝手に想像したりせずにちゃんと質問しないといけないなと思いました。
・しっかり聞いて相手の考えていることを読み取ることが大事だと思いました。
・言葉だけでは伝わらないということがわかった。
・質問がないときのみんなの考えと自分の考えが違うことが印象に残った。
・細かい情報も、とても大事なんだなと思いました。そして、正しい情報を正確に書くことの重要さを私は知りました。
・人の話をまとめて理解するのが難しいと思った。
・皆がどんな考えをしているかをしっかり考えて人の話を聞く。
・目的のものに近づけるためには、情報を沢山得ないといけないと気づきました。
・みんなが想像したやつが、少しずつ違っていて面白かったです。人の話をよく聞くことがとても重要だと思いました。わからないことをそのときにしっかり聞くことも大切だと思いました。一つのことにがっつくと周りのことに目が行き届いていませんでした。
・紙一枚にたくさんの情報を詰めるには難しかった。最後の「南国の島」はクラスメイトと協力することの大切さと、人と心を一つにする難しさが良く分かった。
・みんなで協力することでより色々なことがわかって考えが深まること。
・質問があることで、かなりみんなの答えが揃うことがわかりましたが、言われたことが多い分、聞き逃しが多くなってしまったりしてしまうことがわかりました。
・聞き間違いが多かったし聞けても間違って理解してしまったり、人の話を聞くのは難しいと思いました。
・一つの情報で、自分で考えて情報以外のことを考えて書けること。
・質問があるからわかるのもあれば、わからないことがあり、質問があってもわからないこともあるけど人と話すことで自分だけの想像力じゃなく、人との会話で大事なことがわかると気付く事ができた。
・絵を書くと思ってなかったので、とても楽しく、ワクワクしました。間違っても、面白かったので良かったです。
・今日一番笑えた授業だったのですべてが印象的です。
・自分の考えだけでこの世界は動かない。みんなの考えがあるから世界は回るんだと思いました。
・日本語難しい。
・私の発想力や想像力を知ることができた。

授業実施中のことであるが、特別支援学級担当教員が所属するクラスで授業をした時、私が前で授業をしている様子の写真撮影をその教員に急にお願いしたのだが、それにもかかわらず、快く写真を撮って下さった。あとから見返して分かったことだが、その特別支援学級担当教員は、気を利かせて生徒の様子もたくさん撮影してくれていた。

そんな様子を汲んでか、授業実施の傍ら私が生徒の様子を写真撮影していると、ICT 支援員が自発的に写真撮影協力してくれるという発展的な出来事があった。先程の特別支援学級担当教員に写真撮影をお願いした後の授業での出来事である。ウォーミングアップが終わって授業主導者が交替したタイミングで、ICT 支援員は私が映っている写真を撮影して下さった。

また、ハッピータイムを行うことを事前に学年の教師全体に知らせてあったため、空き時間の都合が

合えば、自分のクラスの様子を見に来てくれた学級担任もいた。さらに驚いたことに、その学級担任は授業の様子を見るだけではなく、自分の端末を持参して生徒と一緒にハッピータイムの授業に参加して下さった。因みに、そのクラスでのふりかえりには、「担任の先生が参加してくれて面白かった。」「担任の先生の絵を一緒にシェアしたのが面白かった・盛り上がった。」という記述回答があった。担任も一緒になって参加してくれたのは、生徒にも教師にもよい学びの時間・よい関係づくりとなったと思う。

授業実施の途中で特別支援学級担当教員、ICT 支援員、学級担任、どの方も自発的に動いて下さり、よりよい形で授業を無事に終えることができた。このことから、本プログラムは授業に自然と参加してしまいたくなる魅力のあるプログラムだと私は授業実施中に感じた。周囲の自発的な協力を得られたことも、授業参加に含まれると私は考える。生徒にとってだけでなく、教員にもこのプログラムは魅力的で思わず参加してしまいたくなる側面があるのだと思う。今回のこの出来事を通し、本プログラム実施により、文字通りよりよい人間関係が築けたと私は実感した。それは生徒同士、生徒と教師、教師同士いずれの関係にも当てはまっていえると思う。

コロナ禍で班活動が思うように実施できない中、工夫をすれば班活動に代わる活動が可能だと思えた一日であった。

また、今回 2021 年 9 月 9 日にハッピータイムを実施するにあたり、授業実施の計画は 1 学期の 5～6 月頃から始めた。「南国の島」の授業であれば、ロイロノートを活用すれば、班活動に代わるシェアが可能だと思ったからだ。しかし、自分にはまだまだ GIGA スクールに対応した知識や技術が足りないので、ICT 支援員と何度もコミュニケーションを取りながら端末のことやロイロノートの機能のことを尋ね、打ち合わせなども行いながら少しずつ今回の授業のための準備を進めた。夏季休業中には校内職員研修（2021 年 8 月 30 日実施）で本時の練習も行った。その上で 2 学期に生徒の前でこの授業を実施することができた。実施までに大きな苦労があったが、実施後の生徒の感想は好評であった。特に、「ふりかえり」は今後も ICT を活用すれば大幅に作業が短縮され、有効であると感じた。働き方改革にもつながっていく。新しいことに実施を踏み切るのは勇気が必要だったが、多くの人の支援を受けながら本プログラムの新しい授業スタイルを作ることができた。支援して下さった多くの方々に感謝の思いでいっぱいである。生徒の反応を見て、実施してよかったと思えた。

【参考文献】

・『いじめ・不登校を防止する　人間関係プログラム　～アクティブラーニングで学校が劇的に変わる！～』
深美隆司・松江市立第一中学校「こころ♡ほっとタイム」研究会編著（学事出版・2016 年 3 月 1 日）
・『子どもと先生がともに育つ　人間力向上の授業―深美隆司のファシリテーション出前研修』
深美隆司（図書文化・2013 年 11 月 1 日）

１学年第３時　「南国の島」支援プラン　コミュニケーション基礎

【エクササイズ（ＥＸ）＆準備物】

ウォーミングアップ『しりとり』　：準備物なし

メインＥＸ『南国の島』　　：Ａ４上質紙一人につき２枚　掲示用の絵２種類
濃いめの鉛筆またはサインペンを一人１本

【ねらい】

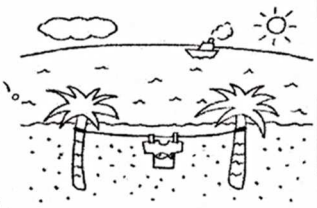
コミュニケーションがうまく取れるかどうかは、お互いが交流できるかどうかというところにある。それは、お互いが相手にベクトルを向け、インプットとアウトプットをくりかえす作業を通じて、考えやイメージを共有することができるのである。２枚の絵を描くことで、双方向のコミュニケーションがいかに大切であるかに気づいていく。

【概要】

『しりとり』は、昔ながらの遊びのツールであるが、文字をつうじて繋がっていくことの心地よさを感じることができる。メインＥＸでは、２枚の絵（「夏の日の風景」「南国の島」）を教員の指示のもとに描いていく。お題は、「教員が見ている絵と同じ絵を描いて下さい。」というものである。１枚目の「夏の日の風景」では、質問を一切受けつけない。すると、子どもたちの絵は、個性豊かな違いが際だった絵になる。２枚目の「南国の島」では、質問することが許される。「わたしが見ている絵と、まったく同じ絵を描いてね。」ということを強調しておけば、質問が出やすい。完成した２枚の絵をそれぞれ班の中でシェアしていけば､同じイメージをもつためには質問する（訊く）ということの大切さと双方向のコミュニケーションの有用性に気づいていく。

【流れ】

	活動の流れ	留意点・教具等
ウォーミングアップ	『しりとり』 班の中で、スタートする人を決め、順番に「しりとり」を行う。「ん」で終わる言葉がＮＧというだけでなく、その他にＮＧジャンル（例えば、花の名前、動物の名前、食べ物、地名など）を決めてやるのも面白い。	○班単位で行うので､その時の班の状態､個人の状態がよくわかる｡子どもたちのレディネスをつくる。
エクササイズ	１枚目の絵『夏の日の風景』 ルール 1)情報内容と同じ絵を描いて下さい。 2)情報は２回言います。 3)質問は受けつけません。 4)他の人の作品を見てはいけません。 ＊情報の内容はｐ３４の課題用紙を参考にしてください。 ①　机を列にした状態で絵を描く。終了後見本の絵を見せる。 ②班にしてシェアをする。 （１枚目はロケット花火という斜めの構図が入っているので、自然とバラバラな絵になりやすいようになっている。）	○はじめから｢双方向のコミュニケーション｣と提示してしまうと、子どもの「気づき」を奪ってしまう。 ○白紙＆ペンを配布 ○１枚目終了後のシェアリングが重要である｡まわりの人たちと自分の作品をしっかりと見比べてもらう。

	活動の流れ	留意点・教具等
エクササイズ	２枚目の絵『南国の島』 ルール 1)情報内容と同じ絵を描いて下さい。 2)情報は２回言います。 3)質問を受けつけます。 4)他の人の作品を見てはいけません。  ① 列の状態で絵を描く。終了後、見本の絵を見せる。 ②班にしてシェアをする。	○質問を出しやすい雰囲気づくりをする。 ○絵の出来、不出来について絶対に論評しない。どうしてもふれざるを得ない場合は「個性的だね」くらいに留める。
ふりかえり・シェアリング	①グループで気づきを交流する。 ＊一回目の作品と二回目の作品をまわりと比べたときの気づき。 ＊一回目描きながら感じたことと、二回目描きながら感じたことを比べてみる。 ②ふりかえり用紙に記入する。	フィードバックの視点 ・１枚目の作品は、個性がよくあらわれていて、作品の幅とバリエーションが豊かである。二回目の作品は、まわりとの共通点と共有できている部分が多くなってくる。

［参考文献］　『人間関係づくりトレーニング』星野 欣生 著　　金子書房

【ポイント】

子どもは絵の出来、不出来を気にしてしまうので、全くそれは関係ないことを強調するだけでなく、「それぞれの絵が個性的である」ということを念頭に置いてフィードバックを返していけば、子どもたちは伸び伸びと描くことができる。１枚目を終えたときに、どうしたら教員が見ている絵に近づけるかを話し合わせて２枚目に質問が出やすくするとよい。

子どもの気づき
・１枚目はどこに何をかいていいのかわからなかったけれど、２枚目は質問してもよかったのでかきやすかった。 ・１人１人違う絵を描いていて、十人十色だなあということを発見しました。 ・質問しないという条件だけで、正確に理解することの難しさを感じました。普段の会話でも相手の一方的な話だけで分かろうとするのでなく、自分の方からも問いただしたりして、理解を深めていきたいです。

教員からのコメント
・「気づき」が多く生じる優れたエクササイズだと感じました。普段、しゃべっていると、人の話を聞いているつもりでも、案外、自分がしゃべることに集中していて、聞いていないことがあります。コミュニケーションは少なくとも、しゃべると聞くとが半分半分が理想だと思いますが、結構、聞けてないなということに気づいていきます。まず、コミュニケーションという信号をしっかりとつかんでいくことが、次の段階である心から「聴く」というステージに昇ることができるのではないかと思いました。

＊道徳の内容項目との関連：　1-(1) 基本的な生活習慣　　2-(5) 寛容・謙虚

（担当：西村　勝美）